

きずな



蓮田・白岡地方ユネスコ協会

第17回地域文化遺産スタディ

「災害記憶遺産」 災害、漂着神、人柱伝承を読み解く

講師 板垣時夫先生

12月17日(土)、14:00～16:00白岡市「こもればの森」会議室で開催、本講演はコロナの蔓延により2月、9月の2度延期、3回目まで規模を縮小して開催した。講師はさいたま民俗文化研究所主席研究員の板垣時夫先生にお願いしました。本講座はわが町を知る、学びの場の提供で地域理解を深めユネスコ活動の認知向上と地域活性化を主旨に実施。先生は、埼玉東部の水害の記録を今に伝える水神、漂着神、信仰を通して災害への備えや環境を如何に守って来たかを後世に伝え、今起きている気候変動に対する防災、減災の意識と温暖化への備えが必要である、と説いておられた。要旨、埼玉東部地域の地形、河川は中川流域の様な低地が多く水害、洪水等災害に



見舞われた半面、低地や川は稲作の恩恵、漂着物等、財や富を運ぶ有難い存在でもあり住民に多くの富をもたらした。河川の決壊跡には2度と災害が起こらないよう水難除け水神様や、農耕の神様が祀られており代表的には、九頭龍大権現、八大龍王や水神宮が主な水神として祀られている。又、

洪水や水害時には沢山のものが流れ着くが、その中には御神体や仏像もあり漂着神として祀られている。信仰の対象は水難除け、疫病、雨乞い、災害復興等となっている。河川流域には水害、架橋、堤防工事などの時、神への犠牲や目的を成就の為に人間を水底に沈める人柱伝承が存在する。これらの犠牲者が村を水害から救ってくれた恩人として神社、弁財天、石碑で祀られており、このような伝承は河川流域の多い埼玉東部に集中している。本講演よりこのような「災害記憶遺産が風化しないよう後世に伝え、災害に備える心構えが必要であると感じた。コロナにより2回の延期に後3回目の会場が小会場しか取れず当初の意気込み、目標に届かなかったのが残念です。



15周年を迎え

会長 田村勝彦

迎春 今年も宜しくお祝い申し上げます。当協会は来る3月29日をもって設立15周年を迎えます。この間皆様より賜りました数々のご支援・ご協力に対し、改めて感謝申し上げます。



昨年もコロナ禍ですが対面活動の機会も増え、学校支援協力活動や鎌倉の文化遺産めぐり、更に地域文化遺産スタディなど従来型の対面活動開催が可能になって参りました。この結果、ユネスコ全国大会in木更津も会場開催となり、2月には当協会15周年記念に因んで「幸せなら手をたたこう」と題した講演も対面方式で開催する運びとなりました。私達は今後とも適合性のあるテーマを模索しながら活動を続けていく所存ですが、取り組まなければならない課題の一つに、会員の高齢化現象への対応があります。向後の活動の活性化を模索するためにも若き人材発掘は喫緊の課題であると考えております。今般の全国大会で協会連盟から地域共働且つ包括教育の観点から「U-スマイルみんなであつなぐ子供応援プログラム」と題した一連の提案がなされました。本件については既述の今後の活性化問題とこれまで実施してきた「学校支援協力活動」を絡ませ、より包括的な視点からその実現性について検討たいと考えております。15周年にあたり、原点に立ち返り、持続させる意味を問い、方法を論じ真剣に活動をせねばと自らを課す覚悟をしております。

蓮田・白岡地方ユネスコ協会

15周年記念講演会

in ハストピア

「幸せなら手をたたこう」

世界で歌い継がれる

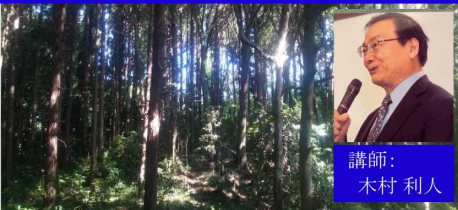
名曲誕生秘話

講師 木村利人

バイオエシックスの世界の権威者に、名曲を生んだフリーピンでの学生時代の思い出や、平和といのちの大切さなどをお話ししていただきます。令和5年2月18日13時30分～16時00分

幸せなら手をたたこう

～名曲誕生の秘話



講師：木村 利人

令和5年2月18日(土)
蓮田市総合文化会館
ハストピア多目的ルーム

電話：田村勝彦 080-3005-6005
<http://www.hasudashiraoka.jpn.org/entry.html>



第20回文化遺産めぐり

鎌倉散策

【比企氏・足利氏ゆかりの史跡を訪ねる】



ースでした。

鎌倉の歴史は古く旧石器、縄文、弥生、古墳時代の遺跡も発掘されています。鎌倉幕府の最盛期には3万人の人口を数え、続く足利幕府は鎌倉府を置き、15代将軍足利義昭が織田信長に滅ぼされ、二つの政権約300年の間、京に続く都市として繁栄しました。

今回は一般の観光ルートは避け、ガイドさんのお計らいで静かで趣の有る鎌倉散策になりました。【山号寺号】長興山妙本寺・日蓮宗・本尊法華曼荼羅。比企能員の屋敷跡、全国日蓮宗寺院の中でも最古の道場として身延山久遠寺、池上本門寺と共に特別の寺格を持つ寺です。ご本尊は日蓮真筆法華曼荼羅。俗に髭曼荼羅

【山号寺号】稲荷山浄妙禅寺・臨済宗建長寺派【鎌倉五山第五位】本尊釈迦如来【開基足利義兼】足利氏の菩提寺として七堂伽藍が完備、1000人を越す僧侶、塔頭23を数える大寺院となった。

【山号寺号】

功臣山報国寺・臨済宗建長寺派【開基足利家時】《尊氏の祖父》本尊釈迦如来【一条恵観山荘】後陽成天皇第九皇子撰政・関白一条恵観（昭良）西賀茂別邸の離れ。昭和34年に京都から鎌倉に移築され、庭石や枯山水も建物と共に移され当時と同じ配置とされた。昭和39年重要文化財に指定される。



浄妙寺



報国寺



参加者ご一同様のご協力により楽しく、事故も無く終わりましたこと感謝申し上げます。

第78回日本ユネスコ全国大会報告

木更津（兼関プロ研）

11月26日（会場）かずさアカデミアホール11時〜17時30分早朝は雨であったが、開演時期には青空が見えた。冒頭はユネスコの歌斉唱が始まった。小学校児童とジュニアオーケストラの演目が終わり、開会式は主催者佐藤会長と君塚運営委員長の挨拶後、外務省外報副報道官、文科省国際統括官、浜田防衛大臣（代読）、県知事（メッセージ）、木更津市長渡辺芳邦氏と来賓挨拶が続いた。記念講演は俳優・宇梶剛士氏が自身の生い立ち、特に母親の人権擁護の生き様に関して何故取り組んだのか、更にアイヌ民族に関わる話、親との確執、学校時代の部活で受けた上級生の不条理ないじめの経験など語った。それでも夢や希望を失わ無いようにさえ居れば道は開けると結んだ。終了後、ユネスコ実践発表が2例あった。次にパネルディスカッション「誰一人取り残さない平和で持続可能な未来を目指して」オーガニックシテイ木更津からの発信」と題して、連盟理事の司会で木更津市長他2名のパネリストと木更津の未来が語られた。地域振興を官民挙げての取組と教育過程の大切さに参加者も共感した様子であった。特に、幼児は9才までの教育で人格形成が決まるとのパネリストの話は関心が集まった。最後は連盟鈴木理事長の挨拶で終了。此の後、次年度の全国大会は山梨県担当で山田県連会長から開催日は令和4年9月9日・場所は富士吉田市と説明された。更に関東ブロックユネスコ活動研究会は、令和4年9月3日・場所は渋谷の青山学院で決定と東京都連池田会長から案内挨拶があった。場所を移しての交流会は31都道府県、170名の参加者を迎え開催。3年ぶりの体面交流会であったが時間も一切合切で一時間半、乾杯始めノンアルコール、エリアごとに全員テーブルを囲んで着席、割合とヘルシーな会食であった。此の辺りは主催者の工夫が感じられた。最後にコロナ禍、全国の参加者を迎えて様々なハズレや課題も克服し、膨大な労力と熱意で大会をリードされた千葉県連、木更津ユネスコ協会に深甚なる感謝と敬意を表します。

10月25日

学校支援協力活動報告①

ユネスコスクール 蓮田市立中央小学校

「エルビンと出会って」ニカラグワの活動

講師：蓮田市在住 JICA青年海外協力隊OG 花田愛



「今日は、地球の乗組員のみなができることを考えてみましょう。」校長先生の言葉をうけて、鮮やかな民族衣装を身にまとった子どもたちも釘付け。熱心に耳を傾けていました。発言は通じなくても、雰囲気やしぐさで言葉の壁は乗り越えられる、興味をもてば分り合える。代表の児童も、花田さんの自己紹介に真似て自己紹介をしてくれました。質問に対して積極的に挙手する6年生の児童たちの姿は学びの意欲を感じました。花田さんが出会ったエルビくん(15歳)の市場でトルティーヤを売っている日常生活の話から、海外では学校に行けることは当たり前ではないことを学びました。また、SDGsの取り組みについても、海外のものは知らないうちに身の回りにあふれている。世界は繋がっているという話。興味や関心をもち、自分ができることは何か？を行動にしていけたらいいですね。というメッセージをいただきました。



「今日は、地球の乗組員のみなができることを考えてみましょう。」校長先生の言葉をうけて、鮮やかな民族衣装を身にまとった子どもたちも釘付け。熱心に耳を傾けていました。発言は通じなくても、雰囲気やしぐさで言葉の壁は乗り越えられる、興味をもてば分り合える。代表の児童も、花田さんの自己紹介に真似て自己紹介をしてくれました。質問に対して積極的に挙手する6年生の児童

（問題）世界の国の数と発展途上国の国は何か国？
皆さんご存知ですか？
（答え）197か国のうち約7割、150か国が発展途上国ということも学ばせていただきました。



学校支援協力活動報告②

ユネスコスクール 蓮田市立蓮田中学校

「キャリア教育について」ナミビア青年活動

講師：春日部出身 JICA青年海外協力隊OB 寺内啓人



寺内さんの初海外はカンボジア一人旅。その後、発展途上国へ旅することにより、新しい発見で日々の悩みがとてもちっぽけなものと感じたこと、また、その現地の人々との出会いにより、もっと知りたい↓住みたい↓働きたい↓せつかくならば困っている人のために働きたい！という思いから、JICAに参加。知識が経験となり大きく変わった体験談をとても丁寧に語っていただきました。

18時の時間を過ごすこと。また、JICAの活動を通じて、「みんなが幸せになれるよう、より良い未来を創っていききたい。興味あることは積極的に取り組んでみましょう。」という言葉がとても印象的で、生徒たちの未来の選択肢が広がる講演でした。実は、1997

年は国際協力第1位だった日本も現在4位ですが、戦後の経済成長を支えるべく新幹線や高速道路を作る時、また東日本大震災時も海外から莫大な支援を受けていたということも知りました。

テンポよく、現地の映像も流しながら生徒も惹きつけられていました。「皆さんは何のために働きますか？」どの時間を充実させたいか。仕事選びとは9時か



新入会員紹介



山口勝治(やまぐちかつじ)

出身・終戦の年、大空襲の翌日に疎開先の蓮田で生まれる。通信メーカーに就職し結婚後に東京へ移住、コンサルティング団体を経てフリーに。横浜市在住。

入会動機…最近、蓮田の幼い頃の仲間らと「ふるさとの記憶」を集成中。幼児期の恩師、故吉井浄仙先生(長松寺住職・幼稚園長)が「自分は、終戦直後の混乱期を

蓮田幼稚園で子どもたちと一緒に生きてきた。この町こそ反戦と平和を考える町にしてほしい」と言われた。それを仲間へ伝えると、「蓮田のユネスコ協会の皆さんに吉井先生の伝記『善縁』を読んでもらってはどうか」とアドバイスされたのが入会のきっかけです。

現在手掛けていること…栃木県佐野市の方々に、佐野ゆかりのオランダ人エラスムスが主張した「平和の訴え」を次世代に継ぐ会を提案中。会員の皆様に助言頂けると有難く思います。また、自身のルーツにも結びつく、見沼代用水を手掛けた江戸職人の事跡を調べているところです。



花田愛(はなだあい)

出身・長野県

入会動機…大学卒業後、幼児・小学生を対象とした体験学習教育の民間企業で勤務。その後、JICA青年海外協力隊員として中米・ニカラグアへ青少年活動の隊員として活動を行いました。帰国後は、JICAにて地球生活体験学習プロジェクトチーム所属(開発教育・国際理解教育を担当)。

その後、民間企業にて発達障害児の運動療育・福祉施設等でのインストラクターを務めました。現在は、日

本に住む外国人の総合生活サポートを行う民間企業に勤務しており、社内のSDGsアンバサダーとしても活動しております。

現在手掛けていること…ユネスコ協会さんから依頼で、蓮田市内の小学校でJICA青年海外協力隊の話をしていただくことで、ユネスコ協会さんの活動を初めて知りました。蓮田には4年前に転居してきたばかりなので、蓮田の事、埼玉県の事は何もわかりませんが、これからの未来を担う子ども達が、住みやすく、のびのびと健やかに過ごせる社会を皆さんとともに考えながら、創り上げられたら嬉しいのです。

※学校支援協力活動報告
①ユネスコスクール 蓮田市立中央小学校講演講師

第74回日本ユネスコ協会連盟 臨時総会報告

第1号議案 ユネ

10月1日オンライン出席
会場 新宿エルタワー30
階14…30〜17…40

スコ・アジア文化センターとの合併延期について
提案理由はACCUの財政状況(資産残高・収支状況)に課題が判明さ

「今年4月1日から予定していた合併につき、時期を一年程度延期する」この件については質疑応答の結果賛成多数で延期が決定された。当協会もより慎重に合併までは協議を重ね、相互を知る機会を増やすことが大事と賛成票を投じた。

第2号議案 定款
64条委員会からの報告を受けた個人会員の除名の審議であった。千代田ユ

名する案件であった。当日は、住谷氏の弁明も聞けたが核心の問題部分は回避する説明に終始した事は、残念に思った。連盟は除名を提案したが、協会を断絶させるようなやりかたは疑問を感じ、継続審議か両者話し合いの

第3号議案 上記
の住谷氏が会長を務める千代田ユネスコ協会を除

味で除名には反対票を投じた。作るのは大変だが、壊すのは簡単である。

当協会の活動の中で、私は自分の人生の経験の中から特に「国際文化スタディ」に関心を持ってきました。過去に行われてきたスタディの中で第5回(2010年)の「私とインドネシア・イスカンダール万亀子氏」の講演と、第9回(2015年)の「韓国語初めの一歩まえ・金 裕鴻氏」の講演に特に興味を持ち、聞き入りました。私はインドネシアには80年代に約5年間駐在して深い異文化体験をしたことがあり、また今から約50年ほど前に、東京の韓国大使館の広報館(日韓親和会)で韓国語を習い始めたのが縁で金 裕鴻先生から言語だけでなくその背景にある異文化の理解の大切さを学んだことがあったからでした。この二つの講演はそれぞれ趣きは異なるものの、多岐かつ仔細にわたるもので胸躍らせながら拝聴し、学んだのを昨日の事のように覚えています。今回、ここで両国にまつ

(寄稿) 小杉正孝氏



わる二つの興味深い文化的エピソードをご紹介します。頂きます。一つはインドネシアの民衆の中で、第2の国歌とも言われほど広く歌われてきている「心の友」と言う日本の歌(五輪真弓86年同国でも公演)の存在です。「静かにまぶた閉じて心のドアを開き私をつかんだら涙ふいて」と言う歌詞の一部は、私に国連憲章の前部にある。「戦争は人の心の中で生まれる。人の心の中に平和の砦を築こう」とある一文と相通ずるものがあり同国での歌の普及の速因があるような気がします。もう一つはインドネシアのスラウエシ(セレベス)島の或る種族が話す文字を持たない言語(チャア語)に、発音が似ていて文字として付加するのに最適なハンゲルを韓国の学者や国の協力も得て十数年前から学校にも導入し普及に努めてきているというこれも心が温まるお話です。



【編集後記】 皆様に平穏な日々がありますよう。